

2026 年度 JSCA 建築構造士定期講習会

1. 開催日時、会場

9 月 19 日 (土) 13:00~17:30 Zoom ウェビナーによるオンライン講習会 (配信開始 12:45)

2. 講習会タイトル

「建築構造のゆくえ」

3. プログラム (プログラム名等は変更する場合があります)

13:00~13:05 主催者開会挨拶

13:05~14:05 BIM 図面審査から BIM データ審査へ向けて

武藤正樹 氏 (CONSTIT 代表)

14:05~15:15 脱炭素の基礎知識

前川元伸 氏 (JSCA 関西支部 脱炭素推進委員会)

15:15~15:25 休憩

15:25~16:25 震災・火災・水災・土砂災害など複合災害と今後の構造設計者への期待

久田嘉章 氏 (工学院大学教授)

16:25~17:25 国内外の地震災害と既存建築の耐震診断・耐震改修 ※録画講演

前田匡樹 氏 (東北大学大学院教授)

17:25~17:30 閉会挨拶

4. 講演概要

(1) BIM 図面審査から BIM データ審査へ向けて

BIM 図面審査制度が、2026 年 4 月開始され、確認済証発行の第 1 号案件も開始早々に現れるなど、まずまずのスタートとなっている。国土交通省は、BIM 図面審査の開始後、おおむね 3 年で BIM データ審査を開始することを予定していて、BIM データ審査のスタートに向けた新しい開発検討が始まった。本講演は、BIM 図面審査の状況を振り返りつつ、BIM データ審査の方向性と、開発の目論見について講演する。

(2) 脱炭素の基礎知識

JSCA 会員の脱炭素リテラシーを強化することを目的に、脱炭素に関する世の中の情報を集め、「こういう情報がありますよ」という意味合いで紹介する。

- ・脱炭素に関する世界の動向
- ・脱炭素に関する日本の動向
- ・鉄骨とコンクリートの脱炭素技術材料
- ・カーボンニュートラルと木材活用
- ・脱炭素に向けた構造技術者の取組み
- ・躯体以外の建築に関する脱炭素

(3) 震災・火災・水災・土砂災害など複合災害と今後の構造設計者への期待

従来の構造設計は自重・地震力などの荷重条件のもとで最適な構造躯体を実現することにあつたと思う。しかしながら、近年の自然災害では、地震荷重だけでなく、2016 年・2026 年熊本地震の地表地震断層のごく近くのキラールパルス、長周期パルス、断層ずれ、南海トラフ巨大地震など海溝型巨大地震の長周期地震動、津波・高磯・洪水・内水氾濫などの水害、土石流・が

け崩れ・地すべり・液状化・盛土崩壊などの土砂・地盤変状災害、林野・市街地境界の大規模火災など様々な複合化する災害への被害低減が期待されている。その際、単に構造躯体の安全性だけでなく、内外装材や屋根・天井・設備機器などの非構造のハード対策に加えて、想定される被災に対して被害を低減するためのソフト対策とその体制づくりの重要性が増している。本講演では様々な自然災害と建築的な対策の事例を紹介し、今後に安全・安心対策のスペシャリストとしての期待される構造設計者の理想像を述べたい。

（４）国内外の地震災害と既存建築の耐震診断・耐震改修

はじめに、1995 年阪神淡路大震災、2011 年東日本大震災、2016 年熊本地震など日本国内、および、2016 年 NZ・カイクウラ地震、2023 年トルコ・シリア地震、2024 年台湾・花蓮地震など海外の地震災害による被害や教訓について概説する。続いて、既存建築の耐震診断・耐震改修の国内外の状況、新しい技術や今後の課題について紹介する。